

## 日銀の視点

上野 淳

早いもので、今年も残り1ヶ月足らずとなつた。今年の県内経済を振り返ると、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類となり人流が活発化したことなどから、一年を通して基本的に緩やかながらも改善を続けたとみている。個人的にも、4年ぶりに通常規模で開催された水戸萬門まつりや、夜の飲食店などで、2年前に水戸に着任して以降では最大のにぎわいを感じた。

コロナ禍からの経済活動の

明るい話題が決して少なくなかったと思う。今年公表された昨年（または昨年度）分の統計では、工場立地面積と県外企業立地件数が全国1位、農林水産物および工業製品等

正常化以外でも、本県には、

調な模様である。

の価格転嫁の動向に引き続き

さて、2000年前後に米

## 本年を回顧しつつ思う

一方で、物価高や海外経済減速の影響も続いた。企業収益が中小企業を含めて安定的につけて、「値決めは経営」と位置付けた上で、「お客様が喜んで買ってくださる会に定着していく「賃金と物

に確保され、今年の賃上げが一過性のものに終わらずに正常化の下で、注視が必要である。また、京セラ創業者の故・稻盛和夫氏はその著書で、「値決めは経営」と位置付けた上で、「お客様が喜んで買ってくださる会に定着していく「賃金と物

のない新製品は、原価プラスで売ろう」などと述べている（日本経済新聞出版『経営12カ条』）。もちろん、ライバルとの競合や需給の状況による要素の一つに販売価格の設定がある。この点、中小企

業を含めたさまざまなコスト

国に留学していた際に耳にし、今でも耳に焼き付いてい

るフレーズの一つに“decision making under uncertainty”という科目名がある。不確実性の下で意思決定を行うことは難しく、心理的ストレスも伴うが、昨今の変化の激しい時代においては、これに付き合っていかざるを得ない。来年も同様であろうが、私どもの立場からは、「賃金と物価の好循環」の実現に

く、その製品が持っている価値の好循環」の実現に向け、本県を含むわが国経済は重要な局面に入ってきた。

（次回は1月13日掲載）

の社会増減が2年連続の増加といったものがあった。今年の基準地価は、住宅地が32年ぶりに上昇に転じ、全用途平均でも2年連続で上昇した。

観光イベント・茨城アスティネーションキャンペーンも順

に、その製品が持っている価値で売ろう」などと述べている（日本経済新聞出版『経営12カ条』）。もちろん、ライバルとの競合や需給の状況による要素の一つに販売価格の設定がある。この点、中小企

業を含めたさまざまなコスト

のない新製品は、原価プラスで売ろう」などと述べている（日本経済新聞出版『経営12カ条』）。もちろん、ライバルとの競合や需給の状況による要素の一つに販売価格の設定がある。この点、中小企

業を含めたさまざまなコスト